

# 平成28年度事業報告書

自：平成28年4月1日 至：平成29年3月31日

(公益事業)

## 公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校41校で指導者25名、参加児童数1,113名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(12年間の合計606校21,627名)。富士フイルム㈱の協力で行った。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フイルム㈱・富士フイルムイメージングシステムズ㈱が主催する「“PHOTO IS”想いをつなぐ。30,000人の写真展2016」での特別企画「“PHOTO IS”小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。本年も574点を7月～11月迄東京等10会場に展示した。児童がどのような物に興味をもって撮っているか、子ども達の多様な感性を鑑賞していただいた。

(2) 「エコトークフォトコンテスト」を福島県、大阪、都近郊の5カ所の小学校で実施、参加児童111名の作品を選考した。クラレトレーディング㈱の協賛。

(3) 全国高等学校文化連盟写真部との共催で催している高校写真部顧問を対象とした第10回「デジタル写真講座」を、6月10日岩手、6月25日愛媛の2カ所で実施した。高校生の大半がデジタルでの写真制作で、顧問の先生方もカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようと約7時間の講習を熱心に体験された。㈱ニコイイメージングジャパンとエプソン販売㈱の協力で行った。

| 日時       | 開催地             | 講師                   | 受講者   |
|----------|-----------------|----------------------|-------|
| 6月10日(金) | 岩手・岩手県立盛岡南高等学校  | 山口勝廣、和田直樹、補助・小池聡     | 教師21名 |
| 6月25日(土) | 愛媛・愛媛県立松山工業高等学校 | 松本徳彦、足立寛、補助・武田直、垂水謙庄 | 教師20名 |

(4) 技術研究会を行った。

| 開催名  | 場所              | 日時                | 参加数 |
|--|-----------------|-------------------|-----|
| 第1回「作品を通して知る ペンタックス645Z、K-1の魅力 超高画素機の研究—第2回 ペンタックス編」<br>講師：HASEO (写真家)             | JCIIビル<br>6階会議室 | 5月11日(水)          | 54名 |
| 第2回「最新デジタルカメラ研究会 富士フイルムのフラッグシップモデル、X-T2とX-Pro2について」<br>講師：佐藤 尚 (JPS会員)             | JCIIビル<br>6階会議室 | 12月10日(土)         | 43名 |
| 第3回「ドローンの世界(初級編)～機材、撮影、法律の基本～」<br>講師：茂手木秀行 (JPS会員)、横濱和彦 (airvision)<br>協力：株式会社アマナビ | JCIIビル<br>6階会議室 | 平成29年3月<br>25日(土) | 80名 |

(5) 第2回意見懇談会「カメラメーカー技術者と話そう！オリンパス㈱編」を、6月27日(月)新宿・オリンパス㈱会議室で催す。JPS会員限定・参加者30人。

(6) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に桃井和馬、石川梵両会員を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

## 公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1) 「第41回2016JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。

公募作品受付：2015年12月15日(火)～2016年1月20日(水) 作品審査：2月6日(土)

審査員：熊切圭介(審査員長)、宮澤正明、山口規子、吉村和敏、佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)

後援：文化庁、東京都ほか

応募総数：2,015名6,717枚（一般部門：1,882名6,416枚、18歳以下部門：133名301枚）

入賞・入選者総数：285名500枚

一般部門：254名448枚（文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選224名）18歳以下部門：31名52枚（最優秀賞1名、優秀賞9名、入選21名）

イベントコーナー：「ヤングアイ」参加校14校

参加校・専門学校 札幌ビジュアルアーツ、筑波大学 芸術専門学群、現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、学校法人 専門学校 東京ビジュアルアーツ 写真学科、学校法人呉学園 日本写真芸術専門学校、日本大学 芸術学部 写真学科、東京総合写真専門学校 写真芸術第二学科、専門学校 名古屋ビジュアルアーツ 写真学科、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科、学校法人 日本写真映像専門学校、ビジュアルアーツ専門学校 大阪 写真学科、大阪芸術大学、九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

総展示数：総展示数：514枚（公募285名500枚、ヤングアイ14校14点）

総入場者数：8,722名

入場料(各展共通)：一般700円（団体割引560円）、学生400円（団体割引320円）、高校生以下無料、

65歳以上400円（関西展、名古屋展は65歳以上無料）※団体は20名以上

各都道府県応募者数：北海道 37、青森 5、秋田 8、岩手 22、山形 3、宮城 19、福島 16、群馬11、栃木 26、茨城 55、埼玉 155、千葉 131、東京 249、神奈川 179、山梨 4、新潟 48、長野 38、富山 5、石川 14、福井 6、岐阜 31、静岡 24、愛知 194、三重 35、滋賀 79、京都 104、大阪 146、奈良 35、和歌山 24、兵庫 84、鳥取 9、岡山 43、島根 6、広島 41、山口 9、香川 14、徳島 8、愛媛 12、高知 11、福岡 36、佐賀 8、長崎 9、大分 2、熊本 2、宮崎 2、鹿児島 3、沖縄 11、海外 2名

2016JPS展副賞提供社(47社)：(株)アイデム、朝日新聞出版(アサヒカメラ編集部)、(株)アスカネット、(株)アマナ、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)ガードフォースジャパン、(株)学研プラス(CAPA編集部)、(株)キタムラ、キヤノンマーケティングジャパン(株)、清里フォトアートミュージアム、(株)クラレ、(株)ケンコー・トキナー、(株)玄光社、(株)コスモス インターナショナル、サンディスク(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、スリック(株)、(株)セコニック、ソニー(株)、(株)ソフトウェア・トゥー、(株)タムロン、(株)DNPフォトイメージングジャパン、デジタルカメラグランプリ事務局、(株)ニコンイメージングジャパン、(株)日経ナショナル ジオグラフィック、一般財団法人 日本カメラ財団、(株)日本カメラ社、(株)日本写真企画、ハクバ写真産業(株)、パナソニック(株)、(株)ピクトリコ、(株)風景写真出版、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株) フレームマン、プロフォト株式会社、ベルボン(株)、北海道「写真の町」東川町、(株)堀内カラー、マイクロンジャパン(株)、マンフロット(株)、三菱製紙(株)、光村印刷(株)、(株)モーターマガジン社、ライカカメラジャパン(株)、リコーイメージング(株) (50音順)

| 開催名   | 会場                                | 日時   | 参加数                             |
|---|-----------------------------------|--|---------------------------------|
| ◆東京展（後援：文化庁、東京都、東京都写真美術館）<br>表彰式<br>講演会「ネット時代における写真のルールとマナー」講師：間島英之（『アサヒカメラ』副編集長）、山口勝廣（JPS専務理事）<br>祝賀パーティー  | 東京都美術館<br>ギャラリーB・C<br>東京都美術館 2階講堂 | 6月11日(土)～<br>26日(日)<br>6月12日(日)1時<br>3時                | 5,054名<br>約220名<br>約220名        |
|   | 東京都美術館 2階スタジオ                     | 6月12日(日)5時   | 約200名                           |
|   | 愛知県美術館D室<br>愛知芸術文化センター12階A室<br>"  | 7月5日(火)～<br>10日(日)<br>7月9日(土) 1時<br>2時                 | 1,571名<br>約140名<br>約140名        |
| ◆名古屋展（後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会）<br>表彰式・東海地区入選者紹介<br>講演会「どうして写真を撮るんだろう？」講師：三澤武彦（JPS会員）<br>イベント：「光をつくろう！スピードライト活用法」<br>講師：五木田友宏（JPS会員）                      | 愛知県美術館D室<br>愛知芸術文化センター12階A室<br>"  | 7月5日(火)～<br>10日(日)<br>7月9日(土) 1時<br>2時                 | 1,571名<br>約140名<br>約140名        |
|   | 愛知芸術文化センター12階A室                   | " 10時  | 60名                             |
|   | 京都市美術館別館<br>京都市国際交流会館             | 7月19日(火)～<br>24日(日)<br>7月22日(金)1時<br>3時                | 2,097名<br>約160名<br>約160名        |
| ◆関西展（後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会）<br>表彰式・関西地区入選者紹介とビジュアルパフォーマンス<br>講演会「写真作りのよもやまばなし」講師：西岡伸太（JPS会員）<br>イベント：「ゆかた DE フォトウォーク in 京都・岡崎」講師：柴田明蘭、西村仁見、クキモトリコ（JPS会員） | 京都市美術館別館<br>京都市国際交流会館<br>みやこめっせB1 | 7月19日(火)～<br>24日(日)<br>7月22日(金)1時<br>3時<br>7月18日(祝)10時 | 2,097名<br>約160名<br>約160名<br>19名 |

(2) 「2016年新入会員展－私の仕事」を開催した。

| 会期                                    | 場所                                  | 入場数    | 備考                   |
|---------------------------------------|-------------------------------------|--------|----------------------|
| 7月14日(木)～20日(水)<br>14日(木) 18:00～19:30 | アイデムフォトギャラリー「シリウス」<br>" オープニングパーティー | 902名   | 展示52名104枚<br>参加者171名 |
| 8月12日(金)～18日(木)                       | 富士フィルムフォトサロン大阪                      | 2,421名 |                      |

(3) 「写真が持つ力とは何か」について語る、第10回JPSフォトフォーラム「写真はこれで良いのか？ 撮影のモラルとマナー」を11月12日(土)、有楽町朝日ホールで開催した。参加者406名。(共催・朝日新聞出版、後援・文化庁)講演とパネルディスカッション パネリスト：石川薫(『風景写真』編集長)、櫻井寛(写真家)、秦達夫(写真家)。司会：佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)、協賛(7社)：エプソン販売(株)、オリンパス(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)。

(4) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

#### 1、収集・保存とデータベース

- ①本年度の写真原板の主な収集作家は、渡辺義雄、岡村崔、岩宮武二、緑川洋一など戦後写真史を彩る作家の作品ネガを中心に、アマチュアの野水正朔、若目田幸平、山崎治雄の郷土や下町の暮らしを捉えたもの、70年代の学生運動を捉えた佐藤玄洋など約11,000点を収集し、整理ののち、約4,700点を収蔵した。
- ②「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」は、現在相模原の収蔵庫に収蔵している写真家50名の画像データベース(SAICHI)から約3,000点を選び出し、アーカイブのホームページから画像の閲覧ができるようにした。(実証実験中)
- ③写真資料および写真原板を収蔵している各地の郷土資料館、図書館、博物館などと、画像情報の連携の可能性について調査した。周防大島町宮本常市資料館、早稲田大学演劇博物館、日本近代文学館、広島平和記念資料館、芳賀日出男ライブラリーを訪問し可能性を調査した。

#### 2、広報活動

- ①昨年催した原爆投下70年を記念した写真展「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」を、京都市美術館別館で7月19日～24日に催した。JPS展と併設展示した。助成：俱進会
- ②日本写真保存センター企画写真展  
「渡辺義雄の眼 伊勢神宮 イタリア・モスクワ」を東京、大阪で開催した。渡辺義雄(文化功労者)のご遺族から写真原板および作品の寄贈を受け、代表作の「伊勢神宮」など61点を展示。図録発行。共催・一般社団法人日本写真文化協会、一般社団法人日本写真著作権協会、協賛・(株)ニコン、(株)ニコンイメージングジャパン、協力・日本大学芸術学部

| 会期  | 場所               | 入場数    |
|---|------------------|--------|
| 10月27日(木)～11月9日(水)                                  | 東京・ポर्टレートギャラリー  | 3,240名 |
| 11月24日(木)～30日(水)                                    | 大阪ニコンサロン         | 2,169名 |
| 11月25日(金)セミナー「渡辺義雄からのメッセージ～フィルム保存の重要性～」講師：松本徳彦(副会長) | 大阪ニコンサロン・セミナールーム | 60名    |

#### 3、保存に関するセミナーを開催

保存センターが構築している写真原板のデータベースの現状と閲覧について、そのノウハウについて説明した。また、「保存に適した包材のデモンストレーション」では、(株)コスモスインターナショナル、(株)資料保存器材、(株)TTトレーディング(旧社名特種紙商事(株))、PGI、ラーソン・ジュール・ニッポン(株)の資料展示と説明があった。今回も全国各地の博物館、美術館、博物館の職員や保存に係る企業の担当者の参加で、写真原板の保存と利活用に対する関心の高さが伺われた。

| 開催名  | 会場                       | 日時               | 参加数  |
|--|--------------------------|------------------|------|
| page2017オープンイベント・JPSセミナー「時代を記録した写真原板に光を！眠っていた写真原板を目覚めさせ、活用しよう」<br>4名の講師によるプレゼンテーション<br>「日本写真保存センターの役割」松本徳彦副会長<br>「写真原板の適切な保存」中川裕美(写真日本保存センター調査員)<br>「写真原板のデータベース」河原健一郎(写真日本保存センター調査員)<br>「写真原板データベースの価値について」丸川雄三(国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授) | 池袋サンプラザ<br>文化会館7階<br>会議室 | 平成29年2月<br>8日(水) | 122名 |

4、2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数12社、1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、一般社団法人日本写真著作権協会。

(5) 創立65周年記念写真展「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」を開催した。写真は日本の海岸線を辿りながら、その風景と風土、人の暮らしを通して見る日本の国土と文化、社会を123人による197点の作品で展示構成。

| 開催名  | 会場                      | 日時                  | 参加数    |
|--|-------------------------|---------------------|--------|
| ◆京都展（後援・国土交通省、文化庁）<br>・フロアレクチャー14日、18日、19日計5回、出展作家によるサイン会<br>・関西在住会員の出展作家11名によるパネルトーク  | 京都市美術館本館<br>南2階         | 6月14日（火）～<br>19日（日） | 1,862名 |
|  | ロムシアター京都・ノースホール         | 6月14日（火）            | 161名   |
| ◆トンガ王国展（共催・国際交流基金、協力・トンガ王国日本国大使館、トンガ王国観光局）<br>海外版「Japan's coastline and its people」写真展 | トンガ王国ヌクアロファ市ビジターセンター、芝庭 | 9月9日（金）～<br>22日（木）  | 約800名  |

予定：2017年4月1日（土）～6月25日（日） 横浜展（日本新聞博物館）開催（共催・読売新聞社）

特別協賛・富士フイルム(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)ニコン、(株)ニコンイメージングジャパン。協賛・(株)タムロン、オリンパス(株)、(株)シグマ、堀内カラー、(株)フレームマン、(有)東京カラーエ芸社、(株)キタムラ、学研プラス『CAPA』編集部。（順不同）

### 公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

| 開催名  | 会場                  | 日時                | 参加数 |
|--|---------------------|-------------------|-----|
| 第1回「クリエイタ指向の著作権制度を求めてー国際社会における日本の著作権法の検討ー」<br>講師：上野達弘（早稲田大学大学院法務研究科教授） | JCIIビル6階会議室         | 10月24日（月）         | 55名 |
| 第2回（関西）「思わぬトラブルを招かないために！～SNS時代の写真ルールとマナー～」<br>講師：山口勝廣（JPS専務理事）         | 大阪市立総合生涯学習センター第2研修室 | 平成29年2月<br>21日（火） | 67名 |

(2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。

(3) 各種著作権契約に関する研究をした。平成29年1月18日JCIIビル会議室に於いて、「ストックフォトにおける契約を考えるーインターネット時代のストックフォトの現状ー」について(株)アフロとグッティイメージズジャパン(株)を講師に招いて研修会を行った。参加者22名。

(4) 著作権の情報収集と公表を行った。

(5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」を毎月第3水曜日実施。相談数11件。

(6) 保護期間70年延長への継続運動の研究等をした。

(7) 保護期間の満了した写真著作権の現状調査継続と関係機関との話し合いに参加した。

(8) 「フォトコンテスト応募に関するガイドライン」の実施状況の調査研究を継続して行った。

(9) 日本写真著作権協会（JPCA）との写真著作権に関わる事業協力をした。9月にJPCAの「写真家実態調査」アンケートを会員に依頼した。

(10) 『スナップ写真のルールとマナー』を新版として、スマホ撮影、ドローン、自撮り棒などについての新たな内容を加筆して発行する『SNS時代の写真ルールとマナー』（朝日新聞出版社刊）の編集作業をした。7月30日発行。

### 公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年3回（No.162～164）発行した。主な内容は162号・focus「報道の自由」「報道の独自性」の問題を取り上げた。163号・特集「リオ・オリンピックに見るスポーツ報道」と題して、新聞通信5社による座談会「現地取材カメラマンに聞くオリンピックの現場」の掲載と、最新機材と配信サービスの最前線を紹介。164号・focus追悼「石原悦郎ー写真に捧げた人生」。また、

前年度の企画として好評だったエプサイトとの共同企画展を、第2回JPS会員によるプリント競演展「我が絶景」として2017年4月に催す。6名の会員による作品を選出してプリント制作とギャラリー展示までの準備を行った。

(2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。

## 公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第42回「日本写真家協会賞」を、高柳昇氏に贈り、贈呈式を、12月14日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、プリンティングディレクターの高柳氏は、我が国を代表する写真家の写真集を数多く手掛け、その仕事は国内外で高く評価され信頼を得ている。写真家の表現である写真集への貢献は計りしれなく、写真文化の発展に大きく寄与していることに対して。

(2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、第12回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

①公募：35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を、公募期間は7月1日～8月20日までに提出。応募者はプロ写真家から大学在学中の学生まで35名36作品。女性14人男性21人。カラー24作品、モノクロ8作品、カラー・モノクロ混在が4作品だった。

8月29日、JCII会議室にて、飯沢耕太郎(写真評論家)、広河隆一(フォトジャーナリスト)、熊切圭介会長の3氏により、厳正な審査を行った。名取賞に川上 真「枝川・十畳長屋の五郎さん」(カラー30点)を、名取洋之助写真賞奨励賞に和田芽衣「娘(病)とともに生きていく」(モノクロ30点)を選び、授賞式を12月14日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

②2016年第12回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

| 会期                    | 会場                | 入場数    |
|-----------------------|-------------------|--------|
| 平成29年1月27日(金)～2月2日(木) | 東京・富士フィルムフォトサロン東京 | 9,918名 |
| 平成29年2月17日(金)～23日(木)  | 大阪・富士フィルムフォトサロン大阪 | 2,744名 |
| 平成29年3月1日(水)～5日(日)    | 福島・福島市民ギャラリー      | 85名    |

JPSが企画する『名取賞受賞作品写真集』を制作した。

(3) [第41回2016JPS展] 入賞・入選者285名を6月12日(日)、東京都美術館6階講堂で表彰した。

入賞・入選者総数：285名。一般部門：254名(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選224名)、18歳以下部門：31名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選21名)  
入賞者：文部科学大臣賞・土肥美帆「LIFE」(4枚組カラー)

東京都知事賞・常石由美子「生氣躍動」(単カラー)

金賞・森 英夫「残像残心」(3枚組モノクロ)

銀賞・福井憲男「イーグルハンター」(3枚組カラー)、銀賞・大林幹彦「雅の列ー祇園祭」(単カラー)

銅賞・関谷智彦「雪山の肖像」(4枚組モノクロ)、銅賞・仲澤正男「夏休み」(4枚組カラー)

銅賞・土居武司「風のいたずら」(単カラー)

18歳以下部門最優秀賞・金本凜太郎「Pause!!!」(3枚組カラー)

日本写真家協会会長賞・学校法人 日本写真映像専門学校「記憶の防護」堤 悠貴、林 利香、吉井脩人

ヤングアイ奨励賞・東京総合写真専門学校 写真芸術第二学科「Kaleidoscope」井上雄輔、深川伶華

## 公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

| 開催名  | 場所                  | 日時       | 参加数  |
|--|---------------------|----------|------|
| 第1回「写真と音楽で伝えたいこと 安田菜津紀×タテタカコ」講師：安田菜津紀、タテタカコ          | 日比谷図書文化館コソバ・ソシオンホール | 5月7日(土)  | 124名 |
| 第2回「NY在住フォトジャーナリスト Q.サカマキ氏が語る写真とメディア」講師：Q.サカマキ氏(写真家) | 東京ウィメンズプラザ1階視聴覚室    | 9月10日(土) | 65名  |
| 第3回「現地報告・人種とジェンダーのアメリカ大統領選挙」講師：佐藤美玲(ジャーナリスト)         | JCIIビル6階会議室         | 12月2日(金) | 31名  |

(2) 来日する海外写真家との交流について、6月1日にモンゴルの写真家、モンゴル写真家協会書記長バットバートル氏、レンツェンドルジ氏、ニャムゲレル氏の3名の表敬訪問があり、当協会の松本副会長、山口専務理事、和田国際交流担当常務理事とモンゴルとの関わりが深い清水哲朗会員も同席した。両国のプロ写真家の活動についての状況説明、プロ写真家の育成についての協力の要望などがあり、今後の両国間の写真家の交流を盛んにするために、継続的な交流をすることで意見が一致した。

(3) 海外の写真情報の収集として

「日本の海岸線をゆく」の海外展をトンガ王国で「Japan's coastline and its people」として9月9日～22日まで、首都ヌクアロファ市ビジターセンターで催し、松本副会長と内堀タケシ委員を派遣した。トンガ王国は、南半球フィジーとタヒチの中間辺りの南太平洋に浮かぶ172の島から成る王国。オープニングはトンガ王国の皇太子殿下同妃殿下の臨席を賜り、観光大臣、海外政府高官、駐トンガ王国特命全権大使、参事官、大使館員ほかTV、ラジオ、新聞、メディアなど多くの方が式典に出席された。皇太子殿下同妃殿下も日本の写真に大変ご興味をもたれ写真を丁寧に御覧頂いた。また、カメラの操作や機能の説明の「写真技術に関するワークショップ」を開いた。

(収益事業)

### 収1事業、書籍、物品の販売事業

- (1) 『2016JPS展作品集』を製作し、6月11日に発行した。
- (2) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- (3) 海外プレスカードの発行をした。
- (4) 日本写真家協会編『SNS時代の写真ルールとマナー』(朝日新聞出版社刊)7月30日発行。価780円。

(その他の事業 共益事業)

### 他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- (1) 『JPSニュース』を年11回(No.540～550)発行した。
- (2) 『会員名簿2016～2017』増補版を6月に発行した。

### 他2事業、祝賀会の事業

- (1) 会員相互祝賀会を12月14日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者347名。

### 他3事業、保険の事業

- (1) 「2016年JPS団体総合生活補償保険」に団体加入した。

## 事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。